

論文題目は、大きい  
めのフォントで書く

この枠から文字や図が  
はみ出さないように注意

## 卒業論文梗概集(要約)の書き方

(指導教員 津田沼 太郎 教授)

津田沼研究室 2131001 工大 一郎

### 1.はじめに

卒業論文をなぜ書くかという問題を本格的に考察すると、「研究とは何か?」「学問とは何か?」という哲学的な問題にも関連するもので、ここでは深く論じないことにする。いずれにしても、学生諸君が行った卒業研究を論文の形式にまとめて、

- (1)学内の教員に発表する
- (2)学内の他研究室の学生に発表する
- (3)記録として一般の閲覧に供す。特に、後輩の学生は非常に興味をもって読むことが多い

ということを目的として書くことであろう。もちろん優れた内容のものは、指導された教員の指示により学会などで発表することもあるかも知れないが、多くの場合は上記の3つのような比較的狭い範囲を対象として書かれることであろう。特に、第3の「後輩のために」ということは、学生諸君が大学を卒業し何年か経過した後、社会で大いに活躍をする頃になって、後輩の学生が「あゝ、あの先輩の書いた卒論があるぞ」といって読むことにもなる。特別素晴らしい論文を書くことは、時間の制限もあるので望む方が無理かもしれないが、誠実な最善を尽くした論文を書くべきである。

### 2.卒論要約

卒論要約だけを読んでその研究のおよその内容がわかるように、自分が行った研究の目的、方法、結果を要領よく1ページにまとめて書く。論文を読む人は、まず要約を読んで、論文そのものを読むか否かを決めるのであるから、最も文章を練ってわかりやすく書く必要がある。最終原稿を書く前に下書きを書き、友人や先輩(特に他の研究室の友人のように研究の詳しい内容を知らない人)に読んでもらって、意見を求めるとよい。特殊な技術用語は専門の異なる人にとってはわからなかったり、別の意味にとられることがあるので、やたらに使用しないこと。

### 3. 文章についての注意

- (1)文章は平易にわかりやすく書くこと。他人の文章の借り物でなく自分の文章を書くこと
- (2)文章は正確に、しかも読んだときにその内容が良くわかるように書く。またひとつの文章がだらだらと長くならないようにする。
- (3)無用な飾りや、あいまいな文学的表現は避け、できるだけ短く必要十分な表現を用いる。特に、得られた結果などは、数値例などを入れてなるべく具体的に表す。
  - ・悪い例「広い周波数範囲にわたって良好な特性をもつものが得られた。」
  - ・良い例「500~1,000(MHz)の広い周波数範囲にわたって、定在波比 1.10 以下の特性をもつものが得られた。」

- (4)技術用語(専門用語)は決められたものを用い、俗語を使わないこと。

### 4. 図表について

図表を適切に用いると、内容がわかりやすくなり、著者の意図している点を読者に的確に伝えることができる。図表には説明をつけ、グラフには横軸、縦軸、表す量の名や目盛の単位をはっきり書く。プロットは小さくならないようにする。

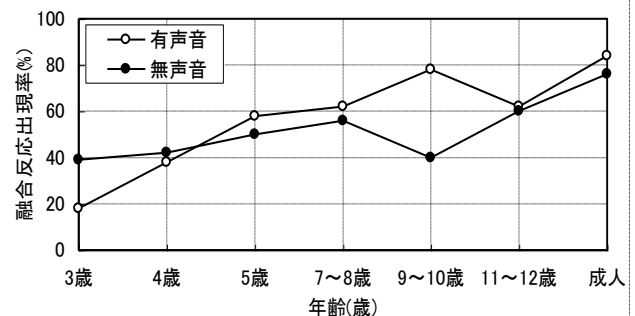


図 1.刺激別融合反応出現率

### 5. 印刷原稿作成上の注意

要約はA4版のコピー用紙(白色で無地)に黒色で鮮明に印刷したものを原稿とし、オフセット印刷後、A4版の冊子とする。文章、図表等は原稿とまったく同じ大きさのものに仕上がると考えて良い。中間調の写真を挿入する場合は網掛け処理をすること。

原稿の文字枠は、本用紙に点線で示されている通り、左右の余白 20mm、上下の余白 25mm であり、この用紙の枠からはみださないこと。また、論文題目、指導教員、所属研究室、学生番号、氏名を上記の例にならって中央揃えで、上部 25mm 以内におさめること。本文は1段組、2段組どちらでも良い。

また、行間、字間は自由であるが、常に他人が読み易いようにということを念頭におくこと。論文題目の文字の大きさは14ポイントまたは12ポイント、本文の文字は10ポイント程度の大きさのフォントを用いると良い。また、見出し文字などは、太字にしたりフォントを変更したりすると効果的である。

### 6.まとめ

梗概集原稿の締切は、

1月16日(木) 16:00

25mm